

敵基地攻撃能力（反撃能力）を持つ長射程ミサイルなどの「弾薬庫」計画を、政府が発表した。長く机上で議論されてきた兵器の配備場所が、いよいよ具体的に見えてきた形だ。攻撃目標になりがちな弾薬庫はウクライナ侵攻でも大きな被害が出ており、敵から狙われる危険が現実味を増す。名指された地域の住民は、不安を隠さない。

（中沢佳子、西田直晃）

# わが町が標的に… 現実味

## 敵基地攻撃担う弾薬庫 各地に新設へ

「敷地の広さなどから、保管するのは攻撃型ミサイル、それも（米国製巡航ミサイルの）トマホークが来るんじゃないか。そうなたら攻撃対象になる」。新たに大型弾薬庫が造られる海上自衛隊大湊地方総監部の地元、青森県むつ市の佐藤武市議の不安は尽きない。

大型弾薬庫新設は、集団的自衛権を行使可能にした安保法制や敵基地攻撃能力を掲げた安保関連三文書と絡んでいると佐藤市議はみる。「むつでは防衛力強化の流れと結び付けて考える人はまだ少ない。市も市民にどんな影響があるか説明できないのでは」。三月市議会で、計画の経緯などを市側にたずねたという。

「弾薬の取得量に見合う火薬庫の確保を進める」。浜田靖一防衛相は十七日の記者会見でこう述べた。戦



## 予定地の大分は寝耳に水 横須賀も候補地？



間継続能力強化に必要な弾薬を保有するため、大湊地方総監部と陸上自衛隊大分分屯地（大分市）に大型弾薬庫を計四棟新設。二〇二三年度予算案に約五十二億円を計上した。浜田氏は「自衛隊の能力を明らかにする恐れがある」と保管するミサイルを明かさなかったが、敵基地攻撃能力のための長射程ミサイルと見られている。

むつ市企画調整課によると、弾薬庫の件は、東北防衛局の職員が十日に市を訪れ、説明を受けたという。

①大湊基地から出港する海自の護衛艦。基地に新たな弾薬庫が造られることになった

②陸上自衛隊大分分屯地。そばには小学校や住宅地がある。陸自ホビーセンター



「新設計画というより、予算案の説明の一環。施設の詳細や保管ミサイルの種類は聞いていない。予算が成立したら説明があると思う」と担当者。同市の宮下宗一郎市長は「日本の安全保障に必要な整備と受け止めている。不安のある市民には、市も自衛隊と協力し不安を解消する」と支持する構えだ。

一方、同じく予定地とされた陸自大分分屯地がある大分市は寝耳に水だった。市防災危機管理課の担当者「報道で知って九州防衛

局に問い合わせ、予算案に関連費用を盛り込んだことを聞いた。今後、計画内容を明らかにし、市民への説明会を開いてほしい」と戸惑う。

大分県内の基地問題に詳しい市民団体「ローカルネット大分・日出生台」の浦田龍次事務局長は「以前から弾薬を扱っている分屯地だが、住民が意識している感じはなかった。でも、敵基地攻撃能力のためのミサイル配備となると、びっくりするだろう」と語る。

分屯地のそばには大分大学や小学校、住宅地もある。「この計画は、単に保管する弾薬の種類が変わるだけじゃない。あそこが攻撃の対象になりかねない話だ」とことは青森と大分に限らない。政府は長射程ミサイル保管を見据え、十年後をめぐりに各地に百三十棟の弾薬庫を増設する方針。一部報道では、神奈川県横須賀市の海自横須賀地方総監部も候補地とみなされている。「こちら特報部」は防衛省に、大湊、大分以外の弾薬庫の整備計画や、配備される予定のミサイルについて尋ねたが、期限までに回答はなかった。